

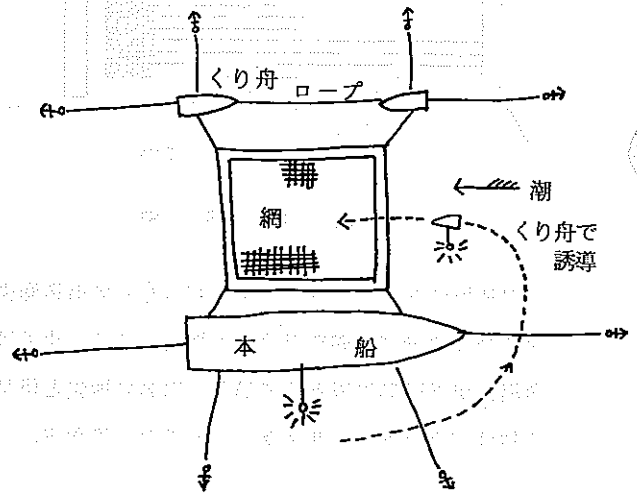
(2) 火光を利用する場合

主として運天港でタレクチ、ドロクイ、キビナゴ等を捕獲する場合に行っている。

本船とくり舟に水中集魚灯（1個使用、白色、250W）をそれぞれ1個ずつとりつけ水深1mぐらいのところまでおろし魚を誘致するのであるが、この場合電源はロープ付コードで本船からとっている。集魚の状態をみて本船の灯のところにそれぞれ魚群を誘導してきて本船の灯だけで魚群を馴れさせる。（約30分間）その間左舷側では網の敷設をする。

即ち、網の2ヶ所の角からのロープは本船に、他の2ヶ所の角からのロープはそれぞれくり舟にとり網をおろし、水深10～15mのところを水平に敷設する。

敷設後灯舟で魚群を誘導し網上にのせて引揚げる仕組である。誘導は船首、船尾、船底側いづれからでも行っているようであるが、この場合潮の流れと同じ方向に誘導している。本船とくり舟3隻と16人程の漁夫で大体一晩で2回操業している。



(2) 棒受網

漁具及方法

操業方法は集魚灯を船中央部から船首に回し500W灯1ヶで船首に魚群を移動させた後網入れを行い網成りをみはからい集魚灯を再び船中央に移し70Vまで電圧を下げ魚群を浮上

させ乗網させるようにした。揚網に当っては先ず網の側辺を締めるように操作し、同時に身網を引揚げて完全に魚の脱出を閉鎖した後張出竹を除々に船内に引入れた魚を魚取部に集めて漁獲した。棒受網の構成については図1、仕様書については表1を参照されたし。

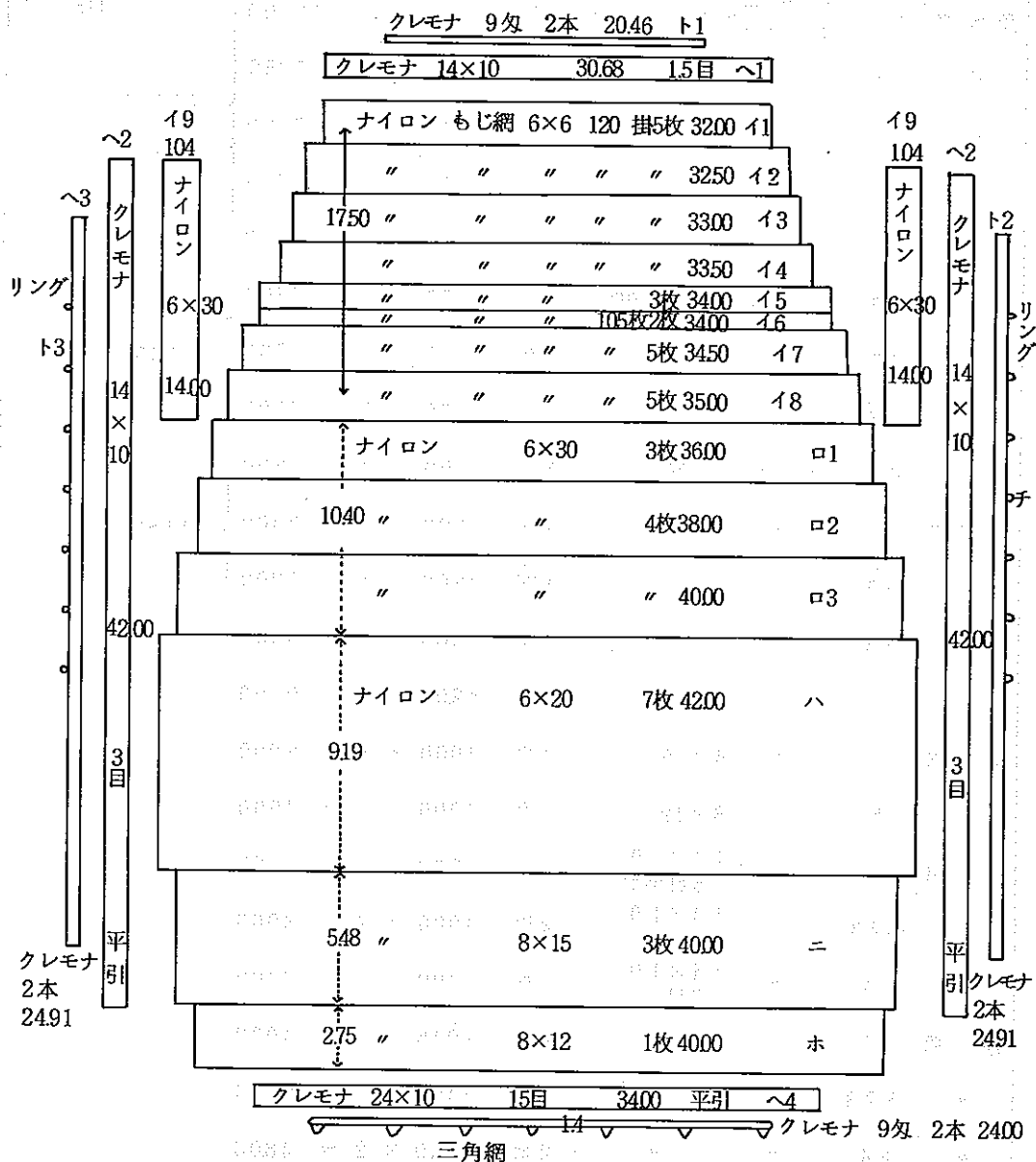


図-1 棒受網構成図

縮	浮子方	3408	0.4	2046
	測方	4532	0.45	2491
	沈子方	4000	0.4	2400
結	リング	40mm径(直径)		16ヶ
	三角網			7ヶ